

# ☆☆☆ 大阪でんきレター ☆☆☆

## 今月のトピック

- ◆社長のひとり言
- ◆嘘つきな脳
- ◆スタッフ紹介



### 社長のひとり言

あなたならどうしますか？

あなたがドラえもんだとします。

ある日、のび太君から「虫歯になったから腕のいい歯医者さんを探して」と言われました。あなたはのび太君の言う通りになりますか？ いいえ、おそらくポケットから「虫歯の治るガム」を出すのではないのでしょうか？ この場合、のび太君は歯医者に行きたいのではなく、虫歯を治してほしいだけだったからです。

こんなことがありました。

社内で、書類の提出をお願いしました。文書書式を指定して、データでの提出をお願いしました。ところが、その指定された書式で提出できないという人がいました。その人は別の書式で提出をしましたが、その指定された書式に疑問を呈しました。「今時そんな書式を指定するのは時代錯誤もいいところだ」と。

書類の提出を求めた人が、文書書式を指定したのは、もし20人近くの人がそれぞれ自分の都合で提出すると、とりまとめる方は編集に時間がかかり、保管にも手間がかかると考えたからからです。文書書式の指定が古いなんて、そんなことはどうでもいいのです。

最初の話と次の話は一見無関係のように感じますが、どこか共通する部分もないでしょうか？ 何も感じない方は、この話を聞いても何も感じないかもしれません。ただ、我々にはそのような人は一人もおりません。まず考える上で、自分だったらどうするか？ それを考えてから、相手のことを考え行動できるかが大事なのではないでしょうか。

年末にかかり始め、皆様せわしない日々をお過ごしかと思えます。そんな忙しい時ほど、私達は「心」が通じるやり取りを心掛け、皆様との1分1秒を大切にしております。



としたりょう  
山本 利太郎

## 嘘つきな脳

突然ですが、脳は嘘つきです。

「盲点」の意味はご存じですか？国語辞典では「誰も見落としている点・気づかない手落・欠点」などと説明されています。

人には「盲点」が実際に存在します。網膜の裏には、脳へとつながる視神経が集まっています。そこには視神経円板と呼ばれる部位があり、そこは視覚を認識できる細胞が一つもない。つまり、画像を処理出来ない、必然的に見えないのです。それは左右の目にひとつずつあり、ちょうど眼球の耳側にあり、それが「盲点」です。



右目を閉じて、左目だけで「□」だけを見つつ、顔をゆっくり近づけて下さい。ある一定のところで「●」が消えませんか？そこが盲点です。

けれども私たちは日常生活で、この図の「●」のように視野から突然何かが消えたりはしません。見ている、私たちがそう感じられるのは、脳が、この見えていない「盲点」の付近の情報を元に、もっともありそうなものを生み出し、視野に生じた空白を穴埋めしているからなのです。

私たちはある意味では、脳に騙されているのかもしれない。

—上野 大輔—

## スタッフ紹介



こばやし しんや  
小林 真也

生年月日：S63年7月16日

年齢：30歳

血液型：非公開

趣味：読書

将来の夢：10kg減量

入社5年目の小林と申します。

秋も一段と深まり、朝夕の寒気が身にしみる時節となりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は読書の秋ということで、読まずに積んだままになっていた本を消化中です。

その中の一冊、「縫製人間ヌイグルマー」。作者は筋肉少女帯の大槻ケンヂ氏です。ぬいぐるみの超人が人類の危機を救うべく仲間と一緒に戦うノンストップSFバトルアクションです。十何年前に購入したものの、話のぶっ飛び具合、異様である登場人物たちにやられて途中でギブアップした作品でした。いま再び手に取り読了を目指して奮闘中です。

大阪でんきレターは“月刊”です。あなたのアドバイス、ご意見を下記アドレスにいただくと励みになります。

大阪電機商事(株)

富山県富山市新庄本町1丁目5番34号

TEL：076-451-4100 FAX：076-451-3599

yoshii@osakadenki.co.jp (吉井 俊邦)

